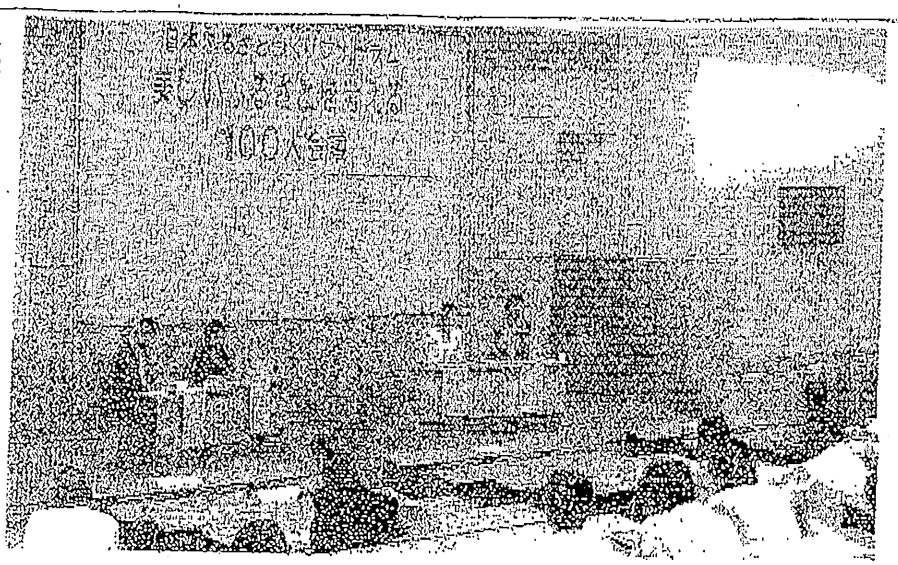
埼玉新聞（教育面）
H19.8.29

ふるさと再生考える

生涯学習まちづくり協 都内でフォーラム



まちづくりボランティアや自治体職員ら約140人が集い開かれた日本ふるさとづくりフォーラム＝東京都渋谷区のオリンピック記念青少年総合センター

NPO法人「全国生涯学習まちづくり協会」（理事長・福留強慶応大教授）とNPO法人「日本子守唄協会」（西舘好子理事長）主催の、日本ふるさとづくりフォーラムが、東京都渋谷区のオリンピック記念青少年総合センターで開かれた。

地域に古くから伝わる慣習、歳時、子守唄など身近な生活の中の文化が失われつつある中で、生活の中の文化が伝わるふるさとの再生を考えようと企画された。

最初に福留理事長が「ふるさとづくりのために生活の中の伝統を学ぼう」と題して基調講演を行った。

続いて、八潮市職員で、やしお生涯学習まちづくり財団常任理事の松沢利行さんの司会で、茨城県、静岡県でふるさとづくりの活動をしている三団体が実践発表した。

発表では、あらゆる世代の人が集まる交流の場づくりや地域探検による地域の魅力発見などの報告があった。

発表を受け松沢さんが「発表者に共通しているのは活動に対する熱意。その熱意が多くの人に伝わって成功している」とまとめた。

最後に「美しい日本。ふるさとを学び、創る」と題したシンポジウムが開かれ、西舘理事長や平林正吉文部科学省社会教育課長らが発言。

「子守唄の収集・普及活動をしている西舘理事長は「まちの風景や伝統ある建物がどんどんなくなりまちの風景や心を消失している。しかしふるさとは心の中に歴史の中に脈々と残っている」と強調した。

平林課長は「地域の教育力の再生がふるさとづくりの求心力となる」と述べた。